

教育に活かすコラージュ

1. コラージュとは何か

(1) 起源

・「コラージュ」というのは元々「貼り付ける，糊づける」を意味するフランス語で，パブロ・ピカソ（1881～1973）やジョルジュ・ブラック（1882～1963）の始めたパピエ・コレから発展した技法である。

・ピカソとブラックは，キュビズム（立体派）を創始し，それは，20世紀初頭にパリを中心にして起こった美術革命といわれ，現代絵画の確立につながる画期的な出来事であった。その流れの中で，パピエ・コレとコラージュが生まれた。



<三人の楽士，ピカソ，1921>

・「パピエ・コレ」とは，「張り紙，貼り絵」を意味するフランス語であり，主に素材が紙質のものであった。1912年頃，ブラックによる新聞紙，楽譜，壁紙，切符などの紙を自由に組み合わせて貼ったものが，初のパピエ・コレと言われている。

・「コラージュ」は，素材として，紙の他に羽毛，砂，針金，布きれなども用いられ，材質，様式ともに自由で斬新な方法である。1912年，ピカソによる「籐椅子のある静物」は初のコラージュ作品である。

(2) 方法（紙を用いたコラージュについて）

・雑誌やパンフレットなどの既成のイメージをはさみで切り抜き，台詞の上で再構成し，糊づけるという極めて単純で明快な方法である。

・用意するものは，糊または両面テープ，先の丸いはさみ，雑誌，新聞，パンフレット，台紙（画用紙等），ゴミ袋（切りくず用），輪ゴム（作品持ち帰り用），クレヨン，サインペンなどである。

・大きく分けて次の二つの方法がある。

コラージュ・ボックス方式

・あらかじめ，絵や写真，文字などから面白そうなものを集めて切り抜き，箱の中に入れておく。箱の中には，画用紙，はさみ，糊，鉛筆等も入れておくことと便利である。あらかじめ，危険なイメージを除くことができる，相手に合わせて内容を調整できる等の長所があり，幼児や心的エネルギー水準の低い人に適すると言われる。短所は，集団的使用に難点がある，準備に手間がかかるなどである。

マガジン・ピクチャー・コラージュ方式

・できるだけ多方面の雑誌等を用意しておき，制作者はそれを自ら切り抜く。雑誌などを指導者側が用意する場合と，制作者自身が自ら持参する場合がある。長所は，集団的使用に適する，制作者自身の身近な材料を選ぶことができるなどである。短所は，切り抜き内容が制作者任せであるため，何が出てくるかわからない不安がある，制作時間がかかるなどである。

2. 治療・教育に活かすコラージュ ～ コラージュ療法

(1) 起源

・「箱庭をミニチュア化するにはどうしたらいいのか」と考えたのを契機に論文発表（森谷寛之，1987），「箱庭とコラージュと非常に近いものがある，その代わりに使える」というコメント（秋山さと子，1987），「コラージュを心理療法に導入」（杉浦京子，1988）

・コラージュが心理療法に導入されはじめ，非常に治療効果が高いことがわかり，1989年，

秋山・杉浦で「コラージュ療法ワークショップ」を開催したのが、「コラージュ療法」の始まりである。

・1992年には、「東京コラージュ療法研究会」が発足，現在に至る。

(2)作業過程で何が起きているのか

・杉浦（1991）は，コラージュの制作過程は遊び的な感覚が生じることから心理的退行を促すと説明している。

・Winnicott（1971）は「遊ぶことは本質的な満足を与える」，「遊ぶことはそれ自体が治療である」と述べている。

・岡田・河野（1997）はコラージュの制作が日常の自我の無意識からの「部分的な退行」を積極的に促進させ，新たな創造の可能性をもたらそうとすると指摘し，すでに素材の選択と切り離し過程そのものが，精神分析療法における「自由連想」に相当するとして，退行の重要性を説いている。

・種村（1976）は，コラージュにおいて本やカタログのページを切り抜く，ちぎるなどの行為は，箱庭での砂によって導かれる心理的退行に相当すると示唆している。

・嫌な素材は排除し，あえて危険なことに直面しなくても済むという安心感がある中で，どの切り抜きをどの場所に配置するかは，個人の無意識の力によって決められ，その行為そのものが自己表現に結びつくものである。

・コラージュにおける切り抜きは，既存のイメージをそのまま用いて自己表現するためにクライアントの理解を深め，言語で表現できない不安や問題点を表現するのに役立つ。その作成過程では，箱庭療法の表現に類似するような守られた中での自己表現が生じ，ある種のカタルシス効果をもたらされる。

・具体的なコラージュ技法・療法の治療的要因として，杉浦（1990）は次の7点を挙げている。それらは，絵画療法や箱庭療法のもたらすものとほぼ一致している。

心理的退行	自己表出（気持ちの開放）	内面の意識化	自己表現と美意識
への満足	言語面接の補助的要素	診断材料	ラポール・相互作用・コミュニケーションの媒介

(3)適用範囲例

・コラージュ技法は，コラージュ療法と呼ばれるように，心理療法として成立したため，不登校，うつ，統合失調症などに対して治療的側面をもつものが多く見受けられる。（特に，不登校に関する報告が多い）しかし，汎用性があることから，自己開発的なもの，学校現場におけるコミュニケーション促進などで実施されることも多い。

治療的場面

不登校

・下山（1992）は中2女子の事例に対して，訪問面接時，コラージュ・ボックス法を実施し，それに伴う女子の変容を検討した。この事例を通して，雑誌をめくる，切り抜くという作業すら負担なクライアントに対しては，あらかじめ，切り抜きを用意しておく，コラージュ・ボックス法の有効性を提言している。

・吉田（2002）は，保健室登校の中学生に，マガジン・ピクチャー・コラージュ法を実施し，リレーションづくりと自己理解の促進をねらった結果，気持ちが通じ，安心感の中で自己表現したり，あたたかな関係が生まれたと報告している。

摂食障害

・森谷（1992）は思春期やせ症の中1女子に対し，一部コラージュを取り入れた治療を実

施した。特に表現意欲の乏しかった初期に、切り抜きのイメージがクライアントの心の世界の一端をつかむために有効であったとしている。

犯罪・非行

・市井(1999)は、矯正施設へのコラージュの導入について、「やらされているという意識を持つものが少ない」、「個別、集団のどちらでも実施でき、継続実施で深い自己洞察を期待できる」、「集団実施では様々な実施方法が工夫でき、レクリエーションの一環として利用できる」、「心情不安定であったり、緊張感・警戒心の強い対象者にも実施方法を工夫することで導入可能である」ということを指摘している。

*その他、神経症、統合失調症(精神分裂病からの名称変更)、うつ病への適用例の詳細について関心のある場合は、「カウンセリング研究 33巻」を参照のこと。

自己啓発的場面

・杉浦(1997)は、一般被験者19名に共通テーマの集団コラージュ制作の効果を検討した結果、事後は、緊張や不安、抑うつ、怒り感情、疲労感などが低減し、逆に活気が高まったということを明らかにした。これは、集団コラージュにおける心身のストレス解消、メンタルヘルスへの好影響を示すものであると説明した。

学校教育場面

・教育分野への普及は、1993年、香川県教育センターが最初に関心を示し、その後、スクール・カウンセラー制度が始まり、徐々に学校でも活用されるようになった。
・茨城県教育センターでは、研修講座の一環としてコラージュ療法を取り入れている。講座案内には次のような紹介文が掲載されている。

心理療法として「箱庭療法」が有名ですが、道具が高価なため、なかなか学校では実施しにくいという現状から、身近な雑誌などを切り抜いて制作する手軽な方法を紹介します。コラージュ療法では、作品を通しての自己表現と思い通りに切って貼るといった作業そのものがもつカタルシス効果が期待できます。集団にも個人にも活用でき、言葉で表現するのが苦手な児童生徒の相談にも有効です。

・荻野(1999)は、県立高校1クラスでコラージュ体験授業を、他クラスは通常授業を行い、その比較を行った。その結果、コラージュ授業を受けた生徒は、自己肯定感が有意に高くなり、不安感が有意に低くなった。これは、制作過程において、幾重もの自己決定を伴う自由な表現行程と、自己の作品を完成した達成感がもたらしたものであるとしている。
・芝(1999)は、新入学児童にコラージュを実施し、担任が入学当初の適応状況を観察したり、児童の心的開放をねらう支援として十分に手応えのある活動であると指摘している。

(4)安全性

・中井(1993)はコラージュの安全性について、ロールシャッハやなぐり描き法と違い、曖昧で不気味なものに不意に直面することはない。ありきたりの図形を、まず下見してから思うように切り抜くのであり、嫌ならパスすればよい。それ以降でも、糊を付ける前に捨てるとか、上に別の切片を貼るとか、いくらでも回避法がある。回避性があるということは安全性が高いと述べている。

・基本的には、制作者本人が自分の作品についてどう思っているか、どう感じているか、それを話してもらうことである。(杉浦, 1999)

・作品についてコメントする場合，健康的な言葉にしてフィードバックすることが大切である。作品が強迫的だなと思った時には，「おー，すごい。こんなにもたくさん貼ってお疲れになりませんでしたか，お疲れでしたら今夜はゆっくりお休みになってくださいね」など。「ウワァ」と思う作品でも，何か別の言葉でとにかく褒める。すると，その人はいい気持ちになる。傷つきやすい人がいたら，誰が聞いてもいい感じの言葉でさらっと流して，「よくできましたね」という。（服部，1999）

・クライアントが心配な場合，危ないなあと感じる場合には使わない方がよい。治療者と患者の関係が，「嫌なら嫌」と言える関係ができているなら，コラージュに危険性はない。

コラージュの薦め

いかがですか，コラージュは？ 子どもと一緒に，のんびり，ゆっくりした気持ちで，自分の感じていること，思っていることを自由に表現してみませんか？

今，季節は秋です。落ち葉やドングリなど，自然の素材を使ったコラージュなどい
いかもありませんね。できあがった作品を，教室に掲示したり，ちょっと工夫してペン立てにしたり，いろいろ楽しいことが考えられそうです。子どもたちの笑顔がたくさん見られたら，是非，学習会の場で紹介してください！！ 楽しみにしています。

< 参考・引用文献 >

- ・現代絵画におけるコラージュの発想の意義 - ピカソのキュビズムの時期を中心に，入江茂，現代のエスプリ コラージュ療法 33-41，至文堂，1999
- ・コラージュ療法の実際，森谷寛之，現代のエスプリ コラージュ療法 29-32，至文堂，1999
- ・コラージュ療法の起源と発展，森谷寛之，杉浦京子他，現代のエスプリ コラージュ療法 29-32，至文堂，1999
- ・新入学児童の学校適応過程におけるコラージュ活動の試み，芝三知世，現代のエスプリ コラージュ療法 186-193，至文堂，1999
- ・コラージュ技法・療法の現状と課題 - コラージュ技法の解釈，現状の成果と問題点，青木智子，カウンセリング研究 33巻3号，2000
- ・コラージュで自分探し，吉田講子，河村茂雄編 ワークシートによる教室復帰エクササイズ，128-129，図書文化，2002
- ・<http://www3.ocn.ne.jp/~opazuma/newpage21.htm>
- ・http://village.infoweb.ne.jp/~fwjh0677/2/collage/collage_info.html
- ・http://www.edu.pref.ibaraki.jp/center/jigyokenshu/senmon/kyousyoku/h14_093/h14_093.htm